

# 善一田古墳公園

大野城市の文化財 第49集 2019



善一田古墳公園の  
場所はこちら

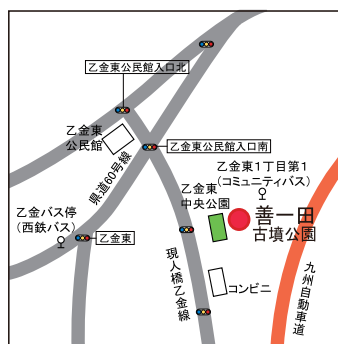
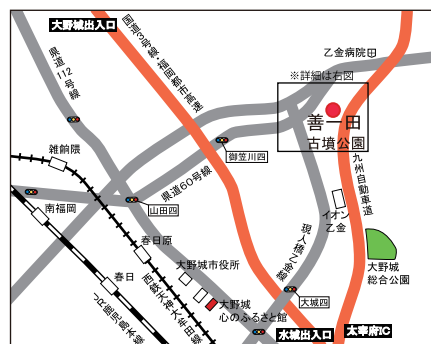
福岡県指定史跡

# ぜん いち だ こ ふん ぐん 善一田古墳群

**所在地** 福岡県大野城市乙金東1丁目 29

## アクセス

- ・JR：南福岡駅（JR南福岡駅からは西鉄バスを利用してください。11番（上宇美行き）乗車、「乙金バス停」下車徒歩5分。）
- ・西鉄電車：春日原駅（西鉄春日原駅からはコミュニティバス「まどか号」を利用してください。イオン大野城へ徒歩3分、乙金ルート・東部ルート1番バス停「イオン大野城」乗車、15番（東部ルート）・16番（乙金ルート）バス停「乙金東1丁目第1」下車、徒歩3分。）
- ・車：太宰府インターから北へ2.5km（約10分）。



## 出土遺物の展示

出土遺物の一部については、大野城心のふるさと館で展示しています。展示期間等については下記にお問い合わせください。

## お問い合わせ先

大野城市教育委員会ふるさと文化財課啓発・整備担当 ☎092-558-2206

2019年8月 第2版



調査中の善一田古墳群（平成26年撮影）

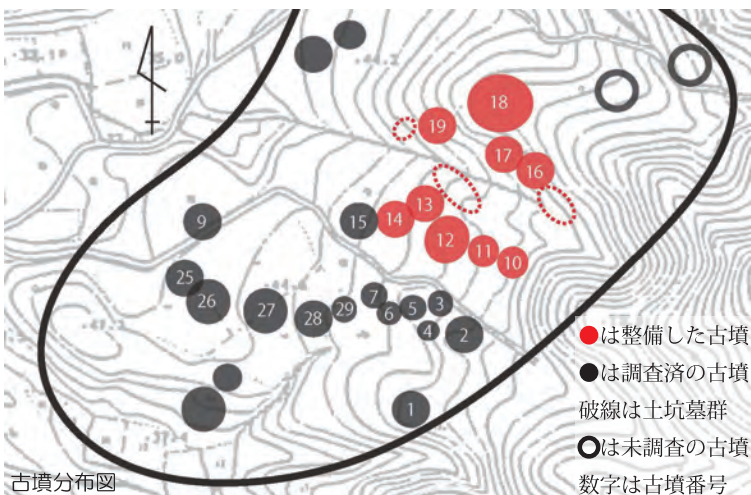
# 開拓者たちの古墳群



古墳群近景

6世紀後半～7世紀の約100年間、4世代前後にわたる複数の家族の古墳群です。総数30基ほどの古墳があり、狭い範囲に古墳が密集していることから、「群集墳」と呼んでいます。

鉄器づくりや朝鮮半島との交流に関わる人々の古墳群ということが最大の特徴です。6世紀中頃に乙金山麓に進出した開拓者集団やその子孫たちが埋葬されました。



古墳分布図

## 激動の時代

古墳群が造られた時代は、聖徳太子が活躍したり、『西遊記』に登場する三蔵法師（玄奘）が旅をしたのと同じ頃です。中国では「唐」が成立、朝鮮半島では高句麗・新羅・百済の三国の争いが激化するなど、東アジアは激動の時代を迎えていました。



善一田古墳群の位置（太宰府市上空から）

◆ 善一田古墳群 ▲ 乙金山 ● 大野城跡 ○ 水城跡 ■ 大宰府政庁跡

古墳群は福岡平野東南部の乙金山麓にあります。この地域は、古代の御笠郡「大野郷」にあたる可能性があり、今の「大野城市」のルーツともいえます。

乙金山麓には善一田古墳群を含めて100基以上の古墳があり、大きな集落の跡や焼き物（須恵器）の窯跡も見つかっています。665年に築造された古代山城「大野城」にも近く、この地で暮らした人々は大野城築造に関わった可能性があります。

# 大野城のおひびきもつと

善一田古墳群で

## 最初につくられた 18号墳

- 時代 / 6世紀後半（古墳時代後期）につくられました。
- かたち / 円墳です。横から見ると、麦わら帽子のような形をしているのが特徴です。
- 大きさ / 東西26m、南北22m。  
同時代の福岡平野では最大級の円墳の一つです。
- 内部 / 石を積み上げてつくった部屋（横穴式石室）があります。  
遺体を安置する部屋（玄室）は高さ3.5mもあり、一番大きな石は推定10トン以上もある巨石を使用しています。

地域を代表するリーダー

## 18号墳に埋葬された人

馬具は装飾性が乏しく、実用的なものです。たくさんの矢、複数の盛矢具（矢を入れる容器）を副葬していることが特徴です。鉄鉗の存在から、金属器生産に関わる職人たちの親方のような性格もうかがえます。

これらの副葬品から、イメージイラストを描きました。



## 18号墳被葬者の姿に迫る！ 副葬品の内容



馬具（鞍金具）  
乗馬の際に、足を  
乗せるための道具。



馬具（轡）  
馬の口にはめて、馬を  
制御するための道具。



刀（鏢）  
6ヶ所に透かし  
穴で装飾する。



弓と矢  
100本以上の鏃のほ  
か、弓の飾金具がある。



盛矢具（鞞金具）  
矢を入れる容器の金  
具。錫で装飾する。



装身具  
紺色のガラス玉や  
碧玉製の管玉。



鉄鉗  
鉄を加工する際に、熱した鉄を挟むための道具。鉄器生産の必需品。右のイラストのように使用。



須恵器  
食器の他、液体を保管したり注いだりする容器。古墳の入口にお供えされた。



名もなき英雄が眠る

18号墳入口

## 出土品から探る 古墳群の特徴

善一田古墳群の出土品から、選りすぐりの資料を紹介し、古墳群の特徴に迫ります。

はるばる海を渡った

### 新羅土器

(18号墳南谷部出土)

朝鮮半島の新羅でつくられた土器で、表面をスタンプで装飾することが特徴です。物を運ぶための容器として持ち込まれたと考えられます。



7世紀前後の朝鮮半島と善一田古墳群



▲柄頭の装着イメージ

新羅のセブ御用達

### 三環頭柄頭

(26号墳出土)

刀の柄に装着する飾りで、有力者の持ち物と考えられます。元々は新羅の貴族たちの間で流行したもので、国際的な交流を示す資料ともいえます。



グローバルなアクセサリ

### 装身具

(26号墳出土)

勾玉・管玉や耳飾りなど色々なアクセサリがあります。写真左下(O囲み)のオレンジ色をした玉は、西アジア(ササン朝付近)でつくられたと考えられます。



▲7世紀前後のアジア

国内最古級!

### ヘラ書き須恵器「奈」

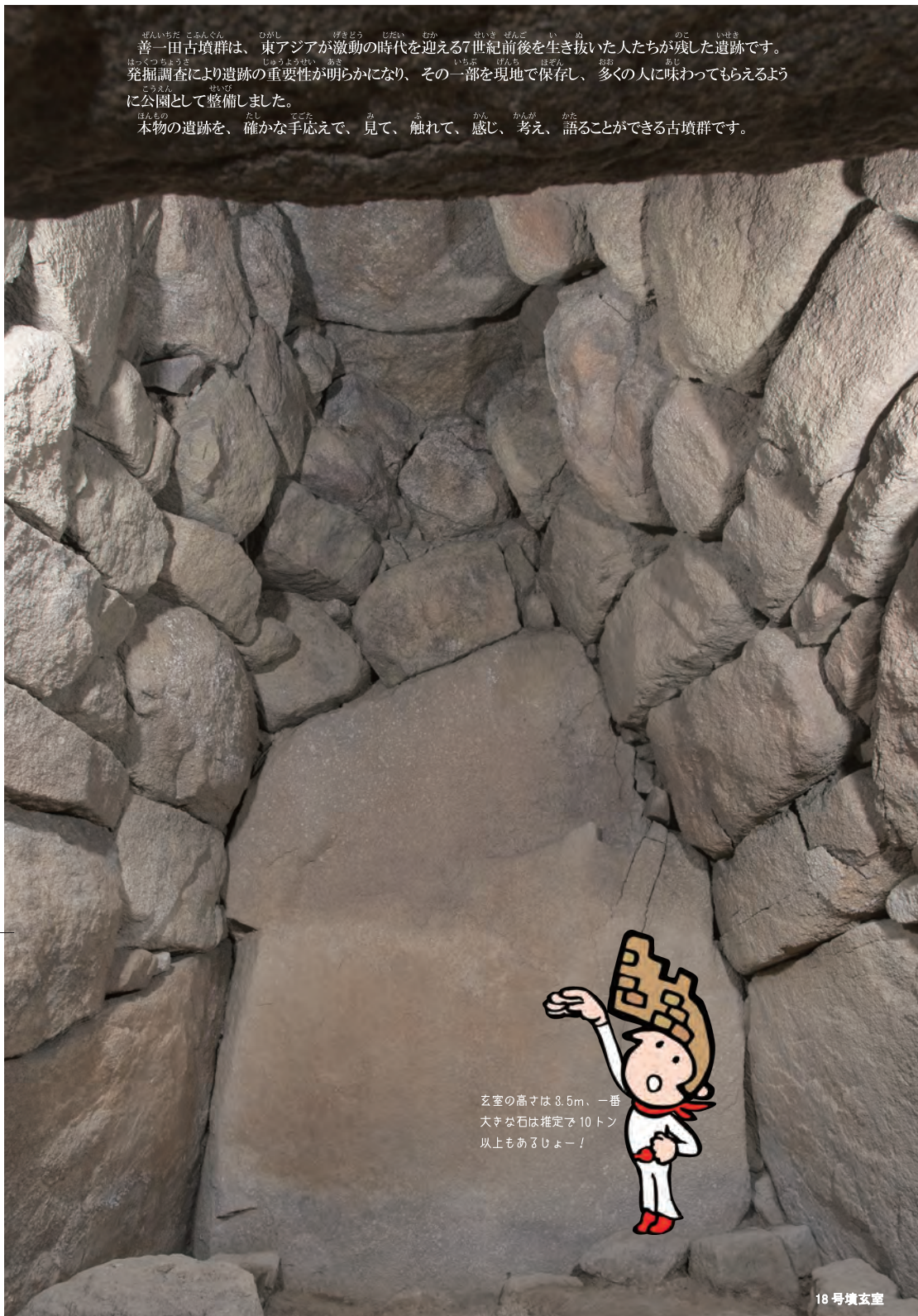
(木棺墓ST01出土)

表面に「奈」という漢字を記した、国内最古級(7世紀前半頃)のヘラ書き須恵器です。木棺墓の副葬品として出土しました。「奈」の意味については、「地名説」「人名説」など、諸説あります。



# アジアとの交流

善一田古墳群は、東アジアが激動の時代を迎える7世紀前後を生き抜いた人たちが残した遺跡です。発掘調査により遺跡の重要性が明らかになり、その一部を現地で保存し、多くの人に味わってもらえるように公園として整備しました。本物の遺跡を、確かな手応えで、見て、触れて、感じ、考え、語るすることができる古墳群です。



玄室の高さは3.5m、一番大きな石は推定で10トン以上もあるじょー!



18号墳玄室

## 激動の時代を切り拓いた 善一田古墳群の仲間たち

善一田古墳群周辺の遺跡を紹介し、激動の時代を生き抜いた人々の姿を探ります。



①: 善一田古墳群 ②: 古野古墳群 ③: 乙金窯跡 ④: 薬師の森遺跡 ⑤: 王城山古墳群

乙金最古の古墳群

### ②古野古墳群

乙金古墳群で最も早くにはじまる古墳群。5世紀後半からたくさんの古墳がつくられました。このうちの一つから、鏡や鈴などの豊富な副葬品が出土しました。

▲古野古墳群の副葬品



開拓者たちの面影

### ③乙金窯跡



▲乙金窯跡で焼いた須恵器

善一田古墳群が出現する直前、6世紀中頃の土器を焼いた窯跡。ここで生産した須恵器の中には、朝鮮半島の土器に似たものがあることから、土器づくりに渡来人が関わったと考えられます。6世紀中頃にはじまる乙金山麓の開拓を象徴する資料です。

善一田古墳群と関わる集落

### ④薬師の森遺跡

善一田古墳群に葬られた人々が暮らした集落。100棟以上の住居があります。一部に渡来人が住んでいて、村の中で鉄器づくりや土器づくりに関わる仕事をしていました。



▲薬師の森遺跡の朝鮮半島系資料

全国ナンバーワン!

### ⑤王城山古墳群



▲新羅土器(王城山古墳群ほか)

善一田古墳群の南に隣接する古墳群。全国で最も新羅土器が集中する古墳群で、朝鮮半島との活発な交流を物語ります。

# 善一田古墳群 Zen Ichi Da